

書評

米国睡眠医学会 著 日本睡眠学会診断分類委員会 訳

睡眠障害国際分類 第2版

診断とコードの手引

日本睡眠学会発行 医学書院販売

名古屋大学教授/総合診療科

伴 信 太 郎

本書は、少なくとも睡眠薬を処方する機会のある医師(ということとはほとんどの医師ということになるだろう)が参照できるところに常備されるべき本である。

その内容は、Ⅰ. 不眠症、Ⅱ. 睡眠関連呼吸障害群、Ⅲ. 中枢性過眠症群、Ⅳ. 概日リズム睡眠障害群、Ⅴ. 睡眠時随伴症群、Ⅵ. 睡眠関連運動障害群、Ⅶ. 孤発の諸症状、正常範囲と思われる異型症状、未解決の諸問題、Ⅷ. その他の睡眠障害、付録. 睡眠障害以外の疾病として分類される諸病態に伴う睡眠障害からなり、それぞれの章には3~15項目の異なる睡眠障害の疾病・症候・病態についての解説がある。

内容からおわかりのように、一部の睡眠の専門家を除いては、最初から終わりまで通読するよう

な書物ではない。(すべての項目を数えてみると)88ある項目名を頭の片隅に置いておき、それらのことに関して診療現場で疑問が生じたときに参考図書としてひもとくとよい。

それぞれの項目の中では同義語/基本的特徴/随伴特徴/患者統計(有病率など)/素因・誘因/家族的発現様式/発症・経過・合併症/病理・病態生理/睡眠ポリグラフ・その他の検査所見/診断基準/臨床的・病態生理学的亜型/未解決の事項と今後の課題/鑑別診断の順に記載され、例えば「寝言 sleep talking」という項目では、「小さな子どもの半数と成人の5%に認め、明確な遺伝的影響がある。ほとんどの症例では重症な精神症状(病理)はともなわない」ことがわかる。また、記述が全体

的にこの形式で統一されているので大変読みやすい。さらには、本書のこの記述の順序がわかれば、各項目を読むときに、時間的余裕に応じて、興味のある部分だけ読むということも可能である(例えば、診断基準と鑑別診断だけ拾い読みするなど)。

本書は、睡眠関連の病態の診断に関しては現在の世界標準であるが、やや無味乾燥であることは否めない。そこで、睡眠研究の第一人者の櫻井 武先生(金沢大学医薬保健研究域医学系教授)の書かれた『睡眠の科学』(講談社ブルーバックス, 2010)と併せて読むことをお勧めしたい。『睡眠の科学』で睡眠に関する興味をそそられながら、診断基準を読んでみると興味が倍加することは間違いない。

最後に訳文は、非常に読みやすく違和感は全くなかった。

『国際頭痛分類第2版』(医学書院, 2007)と同様に、診察室やカンファランス室には少なくとも1冊は常備しておくべき本である。

[B5 頁 296 2010 年 定価
6,300 円(本体 6,000 円+税 5%)
医学書院刊]